

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和4年度第1回河内長野市上下水道事業経営懇談会
2 開催日時	令和4年11月28日(月) 午後3時から
3 開催場所	河内長野市役所 602会議室
4 会議の概要	1. 令和3年度上下水道事業の決算について 2. 河内長野市上下水道ビジョンの取組みについて 3. 下水道使用料の賦課漏れ及び下水道事業受益者負担金の徴収漏れについて
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 上下水道部経営総務課企画財務係 (内線650)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和4年度第1回河内長野市上下水道事業経営懇談会議事録

開催日 令和4年11月28日 月曜日
午後3時00分から午後5時00分まで
開催場所 河内長野市役所602会議室
出席委員 笠原委員 武田委員 水上委員
越仲委員 中田委員 黒田委員

1-1. 令和3年度水道事業の決算について ※該当資料 3-1、3-2

【委員】

資料3-2の決算の事業概況に記載されている内容について、資料5のビジョンの取組み結果に記載がない部分があり、整合性をとるべきではないか。また、ビジョンに倣って「安全」・「強靱」・「持続」の順番に記載すべきではないか。

【市】

事業概況と取組結果の整合性を図っていく。また、記載順序についてもビジョンに倣って整理していく。

【委員】

資本的収支関係について、資本的収入が支出に不足する額は過年度分の損益勘定留保金で補填したとなっているが、当年度分の損益勘定留保資金を使用していないということか。令和3年度で約10億円留保資金が増えるということか。

【市】

前段についてはその通り。後段について、令和2年度末で約11億円あった留保資金を令和3年度で約7億6千万円使用し、令和3年度末には約10億円残っている。

【委員】

業務量について、有収水量は令和3年度では減少しているが、営業収支関係では営業収益は増加している。これは一般会計繰入金と関係しているのか。

【市】

その通り。令和2年度には新型コロナの影響で、水道料金基本料金減額があった。令和3年度において有収水量は減少しているが、前年度の減額の影響で営業収益は増加している。一方で、一般会計繰入金は令和3年度において5,300万円減少している。

【委員】

損益勘定の職員と資本勘定の職員に分かれて表記されているのはなぜか。

【市】

損益勘定の職員は収益的収支で、資本勘定の職員は資本的収支で支払いをしているので、会計的な扱いの違いになる。

【委員】

決算報告書の事務系職員、技術系職員の分け方と整合していないので、事務系職員と技術系職員に分ける方が理解しやすくないか。

【市】

伝わりやすい分け方とするために、記載方法についてもう少し整理していく。

1-2. 令和3年度下水道事業の決算について ※該当資料 3-1、3-2

【委員】

業務量について、有収水量は水道事業に比べて少なくなっているはなぜか。

【市】

下水道の普及率が100%に達していないことや、工場の製造過程で水が蒸発してしまうことなどが挙げられる。

【委員】

単独浄化槽、合併浄化槽は有収水量に入っているか。

【市】

市で管理している浄化槽については有収水量に入っている。合併浄化槽、個別浄化槽、汲み取りなどについて、個人で管理している分は有収水量に含まれていない。

【委員】

資本的収支関係について、令和3年度末の下水道事業の留保資金はどのような状況か。下水道事業の方が資金的に非常に苦しい状況ということか。

【市】

下水道事業の場合は、令和2年度末の留保資金残高が非常に少ない。令和3年度の実質減価償却費は約9億円であり、発生した留保資金は補てん財源として使用したため、使用可能額が令和3年度末には残っていない。後段についてはその通り。

【委員】

企業債について、令和3年度末残高が前年度に比べて減少しており、上下水道ビジョンよりも、約5億円減少している。今後も償還額が増加することにより、残高は減少していく傾向になるのか。

【市】

今後の建設改廃事業の規模により変わってくるので、今後の傾向については上下水道ビジョンの見直しなどで精査していきたい。ただ、現状残高が多額であり、残高の圧縮に努めていきたい。

【委員】

事業概況では狭山水みらいセンターへの負担金が増加したとの記載があるが想定内か。また、職員数がこの10年間で比較すると低い水準にあるが、下水道の安心安全を考えたとき十分なのか。

【市】

流域負担金については想定外の費用が発生しており、大阪府の中期計画にプラスアルファで電気代や人件費などの経費が増加している。職員数についても、想定以上に減少しているので、対応が必要と考えている。

2-1. 水道事業の上下水道ビジョンの取組みについて ※該当資料 4、5

【委員】

強靱について、今年度は1,514mの耐震が行ったと記載があるが、前年度の取り組み予定では、3,106mとなっており約半分になった理由を教えてください。また、指標の分析では令和5年度で耐震化率が29%となっているが、令和4年度の取組みでの目標は27.4%となっており、29%の目標達成は大丈夫なのか。

【市】

昨年度予定していた工事の中で、一件繰越しとなり、令和3年度の実績に入れることができなかったことが一つの要因となっている。また、耐震化の目標については、主要幹線の耐震化を主に実施しており、費用面や工事期間の関係で延長が伸び悩む状況となっているので、目標値を見直す必要があると考えている。ただ、大口径の耐震化ということで、市全体における安全というのは効果が上がっているのではないかと考えている。

【委員】

目標値を見直しながらも、より重要なところを重点的にやるということか。

【市】

その通り。病院や避難所といった重要給水拠点に向かう管の耐震化を基本に考えている。

【委員】

持続について、近隣市との広域的な連携のなかで、共同発注は既に実施しているのか。

【市】

今年度は、主に浄水場運営について近隣7自治体と共同発注ということでプロポーザルを実施した。提案等を受けて現在審査中であり、具体的に実施していくのは来年度を予定している。

【委員】

先日、大雨で静岡県清水市の方で浄水場の止水口が詰まったという事例があったが、本市の対策は大丈夫なのか。

【市】

川上に浄水場があり、類似の事例が発生する可能性もあるので、委託業者とも連携し対応していかなくてはならないと考えている。

【委員】

プロポーザル方式というのはそもそもどのようなものか。

【市】

浄水場の管理について、「24時間安全な水を供給する」というような大枠を示し、募集を行うものとなっている。様々な管理方式が各企業にあり、それぞれの企業の特徴を比較して選定していくこととなる。水道施設の維持管理は安全や技術の問題があり、それらを選定していくうえで、プロポーザル方式をとっている。

【委員】

令和3年度 of 取組み結果及び令和4年度 of 取組みについて、強靱の項目において基幹水道施設の耐震の項目が抜けているが。

【市】

令和3年度及び令和4年度については、予定がなかったため記載していない。以降実施することになれば記載する。

【委員】

持続の項目について、企業団との協議の中で定量的な効果、定性的な効果という文言があるが、定性的な面において、どういう点で効果が明確ではないと判断したのか、もう少し詳細に記載した方がいいと感じた。

2-2. 下水道事業の上下水道ビジョンの取組みについて ※該当資料 4、5

【委員】

快適な生活環境の取組み結果について、浄化槽1基を整備したとなっている。前年度では12基予定されていたが1基となったのはなぜか。また、汚水処理整備率について令和5年度以降目標値の達成は可能なのか。

【市】

1基については設置の要望があり整備を行った。前年度予定の12基については、地域計画で掲げた目標値を計上している。なお、令和4年度についても計画上は20基を予定しているが、要望に応じて浄化槽を設置していく。整備率については、整備の中心が市街化調整区域のため伸び悩んでいるので、見直しを行いたい。

【委員】

物価上昇で電気代や通信料が上がっているが、包括的民間委託に関して今年度以降

の物価上昇は契約において見込んでいないのか。

【市】

処理場等の施設包括に関しては、ユーティリティ、電気代、通信料が7%以上上がったときには協議するという事になっている。その際は申し出により協議が必要となる場合があるかと考えている。

【委員】

安定・経営基盤の強化について、不明水調査を24件実施したとあるが、調査結果について教えてほしい。またお客様サービスの向上について、第2期下水道施設包括民間委託の為に業者選定を行ったとあるが、この業者選定方法や状況を教えてほしい。

【市】

不明水調査については、千代田南町において改築工事の実施に伴い24件の誤接調査を行い、誤接が無いことを確認した。第2期の施設包括については、プロポーザル方式を採用している。参加企業体は1社であり、第1期の共同企業体に1社加わっている。

【委員】

ゲリラ豪雨が発生した際、雨水が原因で管が詰まったり、マンホール内部でヘドロなどが詰まっている事例があるので、日頃からの維持管理で対策しておくべきではないかと考える。

3. 下水道使用料の賦課漏れ及び下水道事業受益者負担金の徴収漏れについて

※該当資料 6

【委員】

このようなことがあっては困るが、今後の対応をどのようにしていくのか。なるべく早く調査して、市民に対し公表してほしい。

【市】

判明しているところから改善は行っており、被害の発生はストップさせている。また、詳細な報告書を改めて公表させていただきたいと考えている。

【委員】

原因について、課同士の情報共有や連携の不足が記載されているが、どのように改善していくつもりか、具体的に記載してほしい。また、受益者負担金について、この徴収漏れは農地が大半なのか。

【市】

農地に対して負担金を猶予するというものである。しかしながら、駐車場、更地など現在農地でなくなっているところもある。

【委員】

徴収猶予申請書が提出されていない事案もあると記載があるが、どういう状況なのか。

【市】

当初は、申請書が提出されているが、猶予継続の申請書が提出されていない。申請書の提出がない場合は負担金を徴収する必要があるが、それができていなかった。

【委員】

継続的に調査すると記載されているが、目途は立っているのか。

【市】

ミスの原因と結果は見えてきているので、対策し再発がないようにしているが、ミスが起きないようにするためにどうすべきか、もう少し検討したうえで公表したい。

【委員】

再発防止につなげてこそ意味があると思うので、対応に力を入れきっちり公表していただきたいと思う。